

3 関東

国内・海外共に増加傾向にある宿泊者数
箱根、日光、草津、河口湖、東京の動向
富士山・富岡製糸場の世界文化遺産の登録

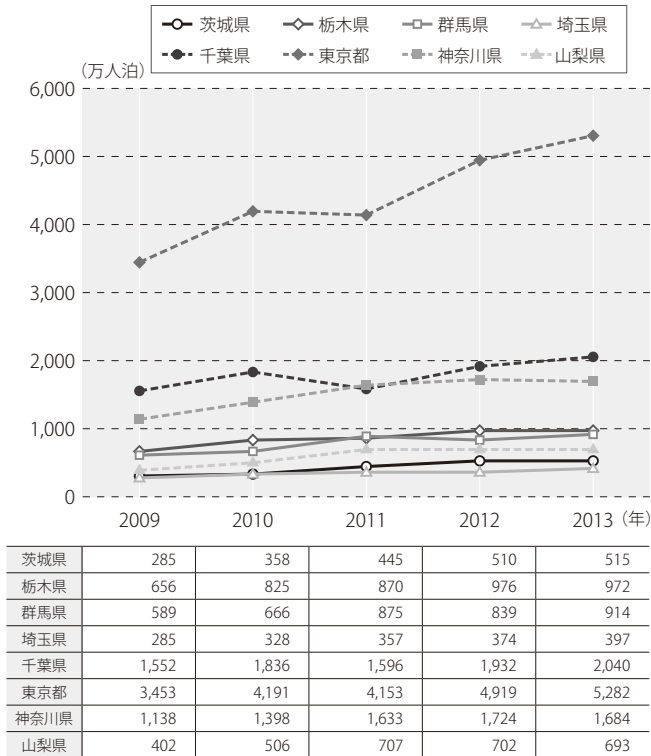
(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると13年1月から12月の関東各県の延べ宿泊者数については、関東全体では1億2,498万人泊となり、前年比4.4%増となった。国内の景気回復や、円安による海外旅行から国内旅行へのシフトなども影響していると考えられる。また、特に関東は東京を中心に観光施設や商業施設の新規オープンが相次いだことなどもトピックとして挙げられる。

延べ宿泊者数が増加したのは、群馬県（前年比9.0%増）、東京都（同7.4%増）、千葉県（同5.6%増）、埼玉県（同6.4%増）、茨城県（同1.1%増）となっており、減少したのが神奈川県（同2.3%減）、山梨県（同1.3%減）、栃木県（同0.5%減）となっている。

一方、外国人延べ宿泊者数については、関東全体では1,391万人泊となり、前年比18.4%増となった。国のビジット・ジャパン事業による訪日プロモーションをはじめ、訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備の推進、各都道府県や自治体の取り組みが積極的に行われた他、円高の是正、東南アジア諸国のビザ発給要件の緩和措置なども重なり、過去最高の数値を記録、もしくは東日本大震災以前の数値に戻りかけている。

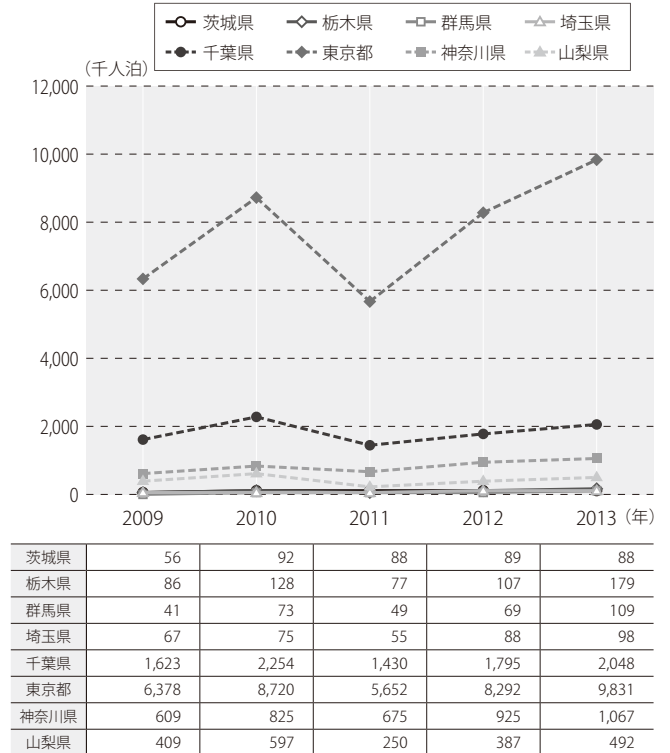
図IV-3-1 延べ宿泊者数の推移（関東）



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：万人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

図IV-3-2 外国人延べ宿泊者数の推移（関東）



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：千人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

増加したのが栃木県（前年比67.4%増）、群馬県（同57.3%増）、山梨県（同27.1%増）、東京都（同18.6%増）、神奈川県（同15.5%増）、千葉県（同14.1%増）、埼玉県（同10.6%増）となっており、減少したのが茨城県（同0.6%減）となっている。

また、茨城県、埼玉県、千葉県、山梨県については中国、栃木県、東京都、神奈川県についてはアメリカ、群馬県については台湾が最も多くなっている。

(2) 主要観光地の動向

●箱根

○新規施設オープン、リニューアルオープン

13年度、箱根では新たな施設のオープンや既存施設のリニューアルが相次いだ（表IV-3-1）。

13年10月には、明治時代に存在した欧米人向けのホテル「開化亭」の跡地に「岡田美術館」がオープン。約5,000㎡にも及ぶ展示面積に、実業家である岡田和生氏が収集した日本・中国・韓国を中心とする古代から現代までの美術品が展示されている。また、14年には食の複合施設である「箱根蔵町」もオープンする。

小田急箱根グループでは、「わかりやすい箱根、まわりやすい箱根」を実現するために約35億円を投資し、12年度より各種整備を行ってきた。13年3月には、芦ノ湖に新型海賊船の「ロワイヤルII」が就航した。エレベーターやバリアフリー対応のトイレを設置した他、強風など悪天候時の操作性を高める機能を搭載した。

また、箱根湯本駅から無料送迎バスで3分の立地に、日帰

表IV-3-1 箱根新規施設オープン、リニューアル情報

施設名	所在地	整備主体	開設年月
箱根小涌園ユネッサン (リニューアル)	二ノ平	藤田観光	2013.3
箱根湯寮	塔之澤	小田急 リゾート	2013.3
大涌谷駅 (リニューアル)	仙石原	箱根 ロープウェイ	2013.4
リゾートピア箱根 (リニューアル)	強羅	リゾート トラスト	2013.4
フォレストアドベンチャー箱根 (リニューアル)	湯本	パシフィック ネットワーク	2013.7
岡田美術館	小涌谷	ユニバーサル エンター テインメント	2013.10
箱根パークス吉野 (リニューアル)	湯本	神奈川 パークス	2013.12
小田急箱根ハイランドホテル (リニューアル)	仙石原	小田急 リゾート	2014.3
箱根ジオミュージアム	仙石原	箱根町	2014.4

資料：新聞、各施設ホームページより（公財）日本交通公社作成

り温泉施設「箱根湯寮」がオープンした。古民家風の里山温泉をイメージしており、首都圏最大級となる19室の貸切個室を備えた露天風呂を擁している。

13年4月には箱根ロープウェイの大涌谷駅の新駅舎が完成した。大涌谷の景観に調和したデザインを採用し、風力発電装置の設置を行うなど、自然環境に配慮した駅舎となった。また、大涌谷の絶景を望めるレストラン「大涌谷駅食堂」や、大涌谷限定の土産物をそろえる「大涌谷駅の店」も併設している。さらに、14年1月には「大涌谷観光センター」が「大涌谷くろたまご館」としてリニューアルオープンし、売店「くろたまSHOP」とレストラン「わくわくキッチン」がワンフロアで展開されている。

なお、箱根登山電車の新型車両の導入が14年11月に予定されている。

○GPSとWi-Fiによる位置情報と連動した観光情報の提供

東日本電信電話株式会社と株式会社リクルートライフスタイルは、小田原箱根商工会議所箱根青年部、箱根強羅観光協会、箱根プロモーションフォーラムなどの各団体と連携し、GPSとWi-Fiによる位置情報と連動した観光案内アプリ「たびな〜び箱根」による情報提供を実施した。観光客がいる場所や時間に応じて箱根のイベント情報やご当地情報を観光客のスマートフォンへ自動で案内する仕組みで、13年度は、8月16日に開催された箱根強羅夏まつり（大文字焼）および、8月24日～9月22日に開催された小田原・箱根元気フェスタ（箱根博覧会）のイベント情報を案内するとともに、Wi-Fiチェックインラリーなどの周遊企画なども実施した。

○箱根ジオパークの取り組み

箱根ジオパークは、箱根山を中心とした1市3町（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町）で構成されている。12年9月に日本ジオパーク委員会の認定を受けて積極的に取り組みが進め

られ、13年度は「箱根ジオパーク新聞」の創刊、総合案内板の設置、「箱根ジオミュージアム」のオープン（14年4月、仙石原）などの動きが見られた。

●日光

○インバウンド受け入れ強化

日光市では、13年2月に「日光ブランド戦略プラン」、3月に「日光市国際化基本計画」、14年3月に「日光市観光振興計画」が策定された。「日光市観光振興計画」においては、「Worldクラスの観光資源、Worldクラスのおもてなし、Worldクラスの満足感『世界の日光を体験しよう!』」をキャッチフレーズとし、観光戦略の3つの柱として「観光資源の品質強化」「観光連携力の強化」「情報発信の強化」を掲げている。特にインバウンドの受け入れには力を入れており、「日光市国際化基本計画」においては、観光PRの促進や観光客の受け入れ態勢の整備が施策として挙げられており、日光観光コンシェルジュの育成や公衆無線LANスポットの設置、カード決済の推進などを具体的施策としている。

日光市と東日本電信電話株式会社は13年10月より「フレッツ光」回線を用いたWi-Fiサービス「光ステーション」を活用し、無料の公衆無線LANサービス「Nikko City Wi-Fi」を開始した。日光市の観光情報をスマートフォンなどに配信する他、日本短期滞在外国人には14日間無料でWi-Fiインターネットが可能な「ID/Pass カード」をビジット・ジャパン案内所などで提供する。また、14年4月には日光東照宮で「VISIT JAPAN大使シンポジウムin日光～インバウンド2,000万人新時代を考える～」が開催された。

都心からのアクセスや世界遺産を擁する環境を活かし、今後さらに国際化への取り組みを強化していく。

○（一社）日光市観光協会の発足

なお、13年12月に日光市内の観光協会（日光観光協会、鬼怒川・川治温泉観光協会、湯西川・川俣・奥鬼怒温泉観光協会、今市観光協会）が合併し、（一社）日光市観光協会が発足した。これまで、各地区の観光協会が独自に実施してきたPRなどを一体的に行い、誘客事業を強化することとしている。

●草津

○温泉街の景観整備の取り組み

草津町では、12年度から3カ年計画で草津温泉のシンボルでもある湯畑周辺の整備事業を進めており、温泉街の景観整備を誘客対策の柱としている。13年4月には、湯畑の西側に「御座之湯」がオープンした。「御座之湯」は、明治時代まで実在し、草津五湯の一つとして人気を誇っていた歴史を持つが、今回、新たに日帰り温泉施設として整備された。木造2階建ての造りになっており、湯畑源泉と万代源泉の2つを楽しむことができる（写真IV-3-1）。

また、14年7月には、湯畑駐車場跡地に、休憩・イベントスペースとなる「湯路広場」もオープンした。浴衣姿でそぞろ歩きができることをイメージした棚田風の散策路となっており、雨天時も歩けるように屋根付きの回廊となっている。

今後は、「湯もみショー」を行っている「熱の湯」の建て替えが予定されており、15年春に再オープンする。

写真Ⅳ-3-1 御座之湯 (外観・内部)



草津温泉は、観光経済新聞社が実施している「にっぽんの温泉100選」において11年連続で総合1位に選ばれており、13年度も「雰囲気」「泉質」「総合」において1位を獲得した。

●河口湖

○富士の国やまなし国民文化祭の開催

13年1月12日から11月10日にかけて、山梨県全域において「第28回国民文化祭・やまなし2013」が開催された。河口湖ではステラシアターを舞台に「富士山ハーモニーコンサート」や「佐渡裕指揮 富士山の麓で第九演奏会」「Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」「吹奏楽の祭典」などが開催された。

○富士河口湖町景観計画の策定

富士河口湖町は、05年9月に景観行政団体になり、09年3月には富士河口湖町景観条例を制定するなど、景観形成の取り組みを進めている。13年3月には、富士河口湖町の景観形成を推進するための総合指針となる「富士河口湖町景観計画」を策定した。「優れた自然と生活・文化が調和する景観の創造」を基本理念とし、一定規模以上の建築行為や開発行為に対する制限や、景観形成推進ゾーンや景観形成重点地区の選定などを行う。

(3) 注目すべきトピック

●世界文化遺産への登録

○富士山—信仰の対象と芸術の源泉

13年6月にブノンペンで開催された世界遺産委員会において、「富士山」(富士山—信仰の対象と芸術の源泉)が世界文化遺産に登録された。対象となる構成資産は山頂の信仰遺跡群や富士五湖などの他、富士山から45km離れた三保松原

も含まれた。富士山は古くから信仰の対象とされてきただけでなく、国内外の芸術作品にも影響を与えてきた点などが評価された。

一方、富士山では年々増加する登山者によるごみの増加や登山道の破壊、トイレの許容量オーバーなどが問題になっていたことなどから、入山料の徴収を検討していたが、13年7月25日から8月3日までの10日間、任意での協力金(1,000円)を徴収する社会実験を山梨・静岡両県(吉田口、富士宮口、御殿場口、須走口)で行った(表Ⅳ-3-2)。期間中、34,327人から3,413万円の協力を得ることができた他、同時に実施した「富士山の協力金導入に関するアンケート」では3,256件の回答を得た。アンケート結果によると、78.7%が協力金の導入に「賛成」と答えた他、使い道として期待することとしては、「ごみ処理などの美化清掃活動の強化」が46.9%と最も多く、協力できる金額としては、「1,000~2,000円未満」が44.6%と最も多かった。

これを受け、14年7月から「富士山保全協力金」として本格導入される。

表Ⅳ-3-2 2013年度 富士山保全協力金

	概要
実施場所	富士宮口五合目、御殿場口新五合目、須走口五合目、吉田口六合目
徴収期間	7月25日~8月3日(10日間) ※降雨、強風、雷等、悪天候の場合は中止
実施時間	午前9時から午後6時
対象者	登山者
金額	基本1,000円(任意)
記念品	缶バッジ(山梨県、静岡県) 記念ボールペン(アンケート協力者のみ) 記念ガイドブック(静岡県のみ)
協力者数	約34,327人
協力金	約3,413万円

○富岡製糸場と絹産業遺産群

03年より世界遺産登録を目指して活動し、07年に世界遺産暫定リストに登録された「富岡製糸場」(富岡市)も14年6月にドーハで開催された世界遺産委員会において、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界文化遺産に登録された。

対象は、1872年にフランスの技術を導入して官営製糸場として設立された「富岡製糸場」の他、近代養蚕農家の原型となった「田島弥平旧宅」(伊勢崎市)、養蚕技術の教育機関である「高山社跡」(藤岡市)、自然の冷気を利用して蚕種を貯蔵した「荒船風穴」(下仁田町)の4カ所である。生糸産業の革新に決定的な役割を果たした他、関連建造物の保存状態が良いことなどが評価された。

●2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定

13年9月にアルゼンチン・ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会総会で、20年に開催されるオリンピックの開催都市に東京が選ばれた。1964年以来56年ぶりとなり、2回

目の開催はアジアでは初となる。一部の競技は東京以外でも行われる。

(公財)日本オリンピック委員会(JOC)と東京都は、14年1月に、大会準備・運営に関する事業を行う(一財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会を設立した。東京都では競技施設の整備を進めるとともに、MICEの誘致や、外国人観光客誘致を見越した観光案内サインの充実、観光ボランティアの育成などを行う方針を示している。

その他、千葉県では「東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部」が、ゴルフ競技が開催される埼玉県川越市では「オリンピック大会準備室」が設置され、各自治体においても20年に向けた動きが始まっている。

●東京のものづくり観光の受け入れ

ものづくりの現場を巡るツアーなどが行われており、墨田区では、13年10月17日から23日にかけて「SUMIDAものづくり探訪」が開催された。「向島の七職人を巡る」コースや、「すみだの地場産業“硝子と革”を知る」コースなど、ものづくりの現場を巡る10ツアーが用意された。墨田区では、小さな博物館運動(Museum)、マイスター運動(Meister)、工房ショップ運動(Manufacturing shop)の三つの頭文字を表した「すみだ3M運動」を展開しており、ものづくりのPRを行っている。

また、大田区でもものづくりの現場である町工場を巡りながら、技・製品・人の魅力を体験できる「おおたオープンファクトリー」を12年より開催しており、13年度は、14年2月15日(13年10月26日開催予定であったが台風により延期)に開催された。期間中は、予約なしで工場を見学して解説が受けられる「工場オープン」が20社ほど登場する他、スタッフによるガイド付きの「工場見学ツアー」が行われた。また、案内・展示・休憩場所としての機能を有する五つの拠点施設が設けられるとともに、イベントなども開催された。

実施主体である「おおたオープンファクトリー実行委員会」(大田観光協会、工和会協同組合、首都大学東京、横浜国立大学、東京大学で構成)は、(公社)日本観光振興協会が表彰する第7回「産業観光まちづくり大賞」の金賞を受賞した。顧客属性ごとにプログラムの差別化を図り、企業側のニーズをうまく取り込んでいる点や、イベント継続へのステップが十分に進められており、地域連携のモデルケースとなる点などが評価された。

●鉄道会社5社の相互直通運転の開始

13年3月、東京メトロ副都心線、東急東横線、横浜高速みなとみらい線、東武東上線、西武有楽町線・池袋線が相互直通運転を開始した。これにより、横浜、元町中華街から新宿・池袋、川越などのアクセスが大幅に向上した。各鉄道会社では、「小江戸川越クーポン」や「東上横浜ベイサイドきっぷ」「東上東急線トライアングルチケット」などのお得な切符などの販売も行った他、14年3月からは各沿線のエリアを巡る「5社相互直通運転開始1周年記念ウォーク」を開催している。横浜

市や川越市などの沿線観光地においても、観光キャンペーンなどを積極的に実施した。

また、14年2月には東横線とみなとみらい線の相互直通運転開始10周年を迎えることを記念し、「電車で行こう!みなとみらいキャンペーン」(14年2月1日から28日)を実施し、記念乗車券の発売などを行った。

●東京ディズニーリゾート開業30周年

「東京ディズニーリゾート」(千葉県浦安市)(以下、TDR)は、13年4月15日に開業30周年を迎えた。12年度から新規アトラクションが順次オープンしているが、14年3月20日まで「ザ・ハピネス・イヤー」と題し、「スウィート・ダッフィー」や「ディズニー・プリンセス」など、さまざまな期間限定プログラムが用意された。こうした効果もあり、13年度の入場者数は、過去最高の3,129万8,000人(前年度比13.8%増)となった。

●東京のホテルが相次いで新規あるいはリニューアルオープン

13年度から14年度にかけて東京のホテルが相次いでリニューアルオープン、さらには外資系の高級ホテルが新規オープンする。

13年3月には「品川プリンスホテルノースタワー」(品川区)が「品川プリンスホテルNタワー」としてビジネスサポート機能を充実させてリニューアルオープンした。

13年12月には、「ホテルラフォーレ東京」をリブランドオープンする形となる「東京マリオットホテル」(東京都品川区)がオープン。マリオット・ホテルズの展開は、国内では沖縄、名古屋に次いで3軒目となる。9月には「ザ・プリンス さくらタワー東京」(港区)がリニューアルオープンした。海外からの送客力強化を目的としてマリオット・インターナショナルと連携し、日本のホテルとしては初めてとなる「オートグラフ・コレクション」に加盟した。さらに、14年6月にはハイアットホテルズの「アンダーズ東京」(港区)が虎ノ門ヒルズにオープンした。

14年度もアマンリゾートの日本初進出となる「アマン東京」(千代田区)など、外資系の高級ホテルが新たにオープンする予定で、国のインバウンド誘致や、20年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定が新規参入に拍車を掛けている。

●記録的な大雪が観光に及ぼした被害

14年2月7日から9日、14日から16日の2週にわたり、広い範囲で大雪の被害に見舞われた。関東は平野部も含めて記録的な降雪量となり、甲府や河口湖、軽井沢、秩父、千葉、宇都宮、横浜などで過去最深の積雪量を記録した。この影響により、東京、埼玉、山梨などの山間部では孤立する集落も発生した。

観光面においても、国・県指定文化財や天然記念物が一部破損する被害があった他、高速道路の通行止めや鉄道の運休、ライフラインへの影響などにより、イベントの中止や宿泊施設が営業できなくなるといった被害が発生した。

(福永香織)